

## ふかめる

# 分かると快感!

# Z会ナビ

▶ 算数

理科

社会

## お題

## 最大で何ページ進める?



Z会にて開講中!  
レゴ・プログラミング通信講座  
プログラミングを使って

Aさんは、夏休みにワークブックに取り組むことにしました。ただし、他の予定もあるので、これを5日間で終わらせる計画を立てたいと思います。

ワークブックは、第1章から第14章まであります。Aさんは、たとえば「1日目は、第1章から第4章まで」「2日目は、第5章から第7章まで」のように、章ごとに切りよく進める計画にしようと思っています(一つの章の途中までやって、残りを次の日に持ち越すことはしないということです)。

1日であまりたくさんページを進めるとつかれてしまうので、一番多く進める日のページ数がなるべく少ないようにしたいと思います。

それぞれの章のページ数は、第1章から順に、下の図の通りです。

5	8	4	4	4	6	8	7	3	10	4	5	2	9
79ページ													

Aさんは、どのような計画にすればよいのでしょうか?

たとえば、次のように分けると、一番多い日には21ページ進めることになります。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
5 8 4 4	4 6 8	7 3	10 4 5	2 9
21ページ	18ページ	10ページ	19ページ	11ページ

しかし、次の分け方なら、一番多い日でも19ページ進めればすみますね。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
5 8	4 4 4 6	8 7 3	10 4 5	2 9
13ページ	18ページ	18ページ	19ページ	11ページ

うまく分ければ、1日に進めるページ数がもっと少なくてすむ分け方があるかもしれません。

## 問題を逆に考える

逆転の発想をしましょう。

この問題は、「5日間で終わらせるには、1日で最大何ページ進めなければならないか?」という問題です。ここで、それを逆にして、「1日最大何ページまでと決めたら、何日で終わるか?」という問題を考えるのであります。

たとえば、もし1日で最大100ページ進められる人なら、ワークブックは1日で終わります。また、最大50ページ進めることができる人なら、1日では無理ですが、2日間で終わりにできます。

そのように考えていくと、1日に最大で進め



イラスト・瑞木 匠

## 5日で終わらせる!

ことのできるページ数を決めたとき、「最大〇ページと決めれば、5日間で終わる」「しかし、それよりも少ないページ数だと、6日間以上かかる」という、ちょうど境目のページ数があるはずです。それが、この問題の答えですね。

## 何日間で終わるか?

では、たとえば、「1日最大15ページ」と決めたとき、何日間で終わるか」を考えてみましょう。

最大が15ページだとすると、1日目には何ページ進めるのでしょうか。もちろん、せっかくなので、なるべく15ページに近いページ数を進めたいところです。

5	5 8	5 8 4	5 8 4 4
5ページ	13ページ	17ページ	21ページ

第1章だけだと5日目、第1章と第2章だと13日目。ここまで進められますが、第3章まで進めようすると17日目になるので、1日目は、第2章までやめておくことになります。

同じように考えると、次の2日目には、第3・4・5章の12日目。その後の3日目には、第6・7章の14日目を進めることになります。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
5 8	4 4 4 6	8 7 3	10 4 5	2 9
13ページ	12ページ	14ページ	10ページ	14ページ

おや、1日15ページまでと決めたら、ワークブックが終わるのに7日間かかるてしまいました。つまり、5日間で終わらせるには、15ページよりももっと多くのページ数を進める必要があったということですね。

## 上限をいろいろ決めてみる

それでは、20ページならどうでしょうか。

1日目	2日目	3日目	4日目	5日目
5 8	4 4 4 6	8 7 3	10 4 5	2 9
17ページ	14ページ	18ページ	19ページ	11ページ

あ、5日間で終わりました。では、この分け方が正解……? いえ、そうではありません。

なぜなら、20ページよりも少ないページ数に決めたときでも、5日間で終わるかもしれないからです。

しかし、ひとまず「15ページよりは多いページ数でないとダメ」、「20ページよりは多くなくてよい」ということまでは分かりました。あとは、15ページと20ページの間のページ数に決めたときにどうか、調べていけばよいですね。

調べていくと、「17ページなら5日間で終わるが、16ページでは6日間かかる」とことがわかるはずです。1日最大17ページ進めたとしたときの分け方が正解です。

(Z会・宮坂聰)



問題を逆にして考えました。



宮坂聰さん 2006年Z会入社。大学受験用の数学の教材編集などを経て、現在はプログラミング教育を担当。長野県諏訪市生まれ。